



# コンフィギュレーションのインポート/エクスポート

- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#) (1 ページ)
- [FXOS コンフィギュレーション ファイルのエクスポート](#) (2 ページ)
- [自動設定エクスポートのスケジューリング](#) (4 ページ)
- [設定エクスポート リマインダの設定](#) (6 ページ)
- [コンフィギュレーション ファイルのインポート](#) (6 ページ)

## コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて

Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォームのコンフィギュレーション設定を含む XML ファイルをリモート サーバにエクスポートするコンフィギュレーションのエクスポート機能を使用できます。そのコンフィギュレーション ファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 シャーシに迅速にコンフィギュレーション設定を適用し、よくわかっている構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

### 注意事項および制約事項

- コンフィギュレーション ファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーション ファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーション インポートが失敗する可能性があります。
- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップ ツールを使用する必要があります。
- Firepower 4100/9300 シャーシへのコンフィギュレーションのインポート時、Firepower 4100/9300 シャーシのすべての既存のコンフィギュレーション（論理デバイスを含む）は削除され、インポートファイルに含まれるコンフィギュレーションに完全に置き換えられます。

- コンフィギュレーション ファイルのエクスポート元と同じ Firepower 4100/9300 シャーシだけにコンフィギュレーション ファイルをインポートすることをお勧めします。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシのプラットフォーム ソフトウェア バージョンは、エクスポートしたときと同じバージョンになるはずですが、異なる場合は、インポート操作の成功は保証されません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、エクスポートしたときと同じスロットに同じネットワーク モジュールがインストールされている必要があります。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、インポートするエクスポート ファイルに定義されているすべての論理デバイスに、正しいソフトウェア アプリケーション イメージがインストールされている必要があります。
- インポートするコンフィギュレーションファイルに、そのアプリケーションにエンドユーザライセンス契約書 (EULA) がある論理デバイスが含まれていると、コンフィギュレーションをインポートする前に、そのアプリケーションの EULA が Firepower 4100/9300 シャーシで受け入れられている必要があります。受け入れられていない場合、操作は失敗します。
- 既存のバックアップ ファイルが上書きされるのを回避するには、バックアップ操作時にファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーしてください。

## FXOS コンフィギュレーション ファイルのエクスポート

エクスポート設定機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモート サーバまたはにエクスポートします。

エクスポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバにエクスポートするには、次の操作を行います。

**scope system**

**export-config** *URL* **enabled commit-buffer**

次のいずれかの構文を使用してエクスポートされるファイルの URL を指定します。

- **ftp://username@hostname/path/image\_name**
- **scp://username@hostname/path/image\_name**
- **sftp://username@hostname/path/image\_name**

- **fttp://hostname:port-num/path/image\_name**

(注) ファイル名を含むフルパスを指定する必要があります。ファイル名を指定しないと、指定したパスに非表示ファイルが作成されます。

例:

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # export-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml
enabled
Firepower-chassis /system/export-config # commit-buffer
```

**ステップ 2** エクスポート タスクのステータスを確認するには以下を行います。

**scope system**

**scope export-config hostname**

**show fsm status**

例:

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # scope export-config 192.168.1.2
Firepower-chassis /system/export-config # show fsm status
```

Hostname: 192.168.1.2

```
FSM 1:
Remote Result: Not Applicable
Remote Error Code: None
Remote Error Description:
Status: Nop
Previous Status: Backup Success
Timestamp: 2016-01-03T15:32:08.636
Try: 0
Progress (%): 100
Current Task:
```

**ステップ 3** 既存のエクスポート タスクを表示するには以下を行います。

**scope system**

**show export-config**

**ステップ 4** 既存のエクスポート タスクを変更するには以下を行います。

**scope system**

**scope export-config hostname**

エクスポート タスクを変更するには、次のコマンドを使用します。

- **{enable|disable}**
- **set description <description>**
- **set password <password>**
- **set port <port>**

- **set protocol** {ftp|scp|sftp|tftp}
- **set remote-file** *path\_and\_filename*
- **set user** <*user*>

**ステップ 5** エクスポート タスクを削除するには以下を行います。

```
scope system
delete export-config hostname
commit-buffer
```

## 自動設定エクスポートのスケジューリング

スケジュールされたエクスポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバまたはにエクスポートします。エクスポートは、毎日、毎週、または2週間ごとに実行されるようにスケジュールできます。設定のエクスポートは、スケジュールされたエクスポート機能がいつ有効になるかに基づき、スケジュールに従って実行されます。そのため、たとえば週ごとのスケジュールされたエクスポートが水曜日の午後 10 時に有効になる場合、システムは新しいエクスポートを水曜日の午後 10 時ごとに開始します。

エクスポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

### 手順

スケジュールされたエクスポート タスクを作成するには、次のようにします。

- a) ポリシー設定をエクスポートする範囲を設定します。

```
scope org
scope cfg-export-policy default
```

- b) エクスポート ポリシーを有効にします。

```
set adminstate enable
```

- c) リモートサーバとの通信で使用するプロトコルを指定します。

```
set protocol {ftp|scp|sftp|tftp}
```

- d) バックアップファイルを格納する場所のホスト名またはIPアドレスを指定します。サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、またはFirepower 4100/9300 シャーシがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。

IPアドレスではなくホスト名を使用する場合、DNSサーバを設定する必要があります。

**set hostname** *hostname*

- e) デフォルト以外のポートを使用する場合は、ポート番号を指定します。

**set port** *port*

- f) リモート サーバにログインするためのユーザ名を指定します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**set user** *username*

- g) リモート サーバのユーザ名のパスワードを指定します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**set password** *password*

- h) ファイル名を含むコンフィギュレーションファイルをエクスポートする場所のフルパスを指定します。ファイル名を省略すると、エクスポート手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。

**set remote-file** *path\_and\_filename*

- i) 設定を自動的にエクスポートするスケジュールを指定します。これは、[Daily]、[Weekly]、または [BiWeekly] のいずれかにできます。

**set schedule** {*daily|weekly|bi-weekly*}

- j) トランザクションをシステム設定にコミットします。

**commit-buffer**

例 :

```
Firepower-chassis# scope org
Firepower-chassis /org # scope cfg-export-policy default
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy # set adminstate enable
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set protocol scp
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set hostname 192.168.1.2
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set remote-file /export/cfg-backup.xml
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set user user1
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set password
Password:
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set schedule weekly
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # commit-buffer
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy #
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy # show detail
```

```
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Enable
  Protocol: Scp
  Hostname: 192.168.1.2
  User: user1
  Remote File: /export/cfg-backup.xml
  Schedule: Weekly
  Port: Default
  Current Task:
```

## 設定エクスポート リマインダの設定

設定エクスポートが特定の日数実行されていないときにシステムにエラーを生成させるには、エクスポート リマインダ機能を使用します。

### 手順

設定エクスポート リマインダを作成するには次のようにします。

**scope org**

**scope cfg-export-reminder**

**set frequency *days***

**set adminstate {enable|disable}**

**commit-buffer**

例：

```
Firepower-chassis# scope org
Firepower-chassis /org # scope cfg-export-reminder
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder # set frequency 10
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder* # set adminstate enable
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder* # commit-buffer
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder # show detail
```

```
Config Export Reminder:
  Config Export Reminder (Days): 10
  AdminState: Enable
```

## コンフィギュレーション ファイルのインポート

設定のインポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシからエクスポートした構成設定を適用できます。この機能を使用して、既知の良好な構成に戻したり、システム障害を解決したりできます。インポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバからインポートするには、次の操作を行います。

**scope system**

**import-config** *URL* **enabled**

**commit-buffer**

次のいずれかの構文を使用してインポートされるファイルの URL を指定します。

- **ftp://username@hostname/path/image\_name**
- **scp://username@hostname/path/image\_name**
- **sftp://username@hostname/path/image\_name**
- **tftp://hostname:port-num/path/image\_name**

例 :

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # import-config scp://user1@192.168.1.2:/import/cfg-backup.xml
enabled
Warning: After configuration import any changes on the breakout port configuration will
cause the system to reboot
Firepower-chassis /system/import-config # commit-buffer
```

**ステップ 2** インポート タスクのステータスを確認するには以下を行います。

**scope system**

**scope import-config** *hostname*

**show fsm status**

例 :

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # scope import-config 192.168.1.2
Firepower-chassis /system/import-config # show fsm status

Hostname: 192.168.1.2

FSM 1:
Remote Result: Not Applicable
Remote Error Code: None
Remote Error Description:
Status: Import Wait For Switch
Previous Status: Import Config Breakout
Timestamp: 2016-01-03T15:45:03.963
Try: 0
Progress (%): 97
Current Task: updating breakout port configuration (FSM-STAGE:sam:dme:
MgmtImporterImport:configBreakout)
```

**ステップ 3** 既存のインポート タスクを表示するには以下を行います。

**scope system**

**show import-config**

**ステップ 4** 既存のインポート タスクを変更するには以下を行います。

**scope system**

**scope import-config** *hostname*

インポート タスクを変更するには、次のコマンドを使用します。

- {**enable**|**disable**}
- **set description** <*description*>
- **set password** <*password*>
- **set port** <*port*>
- **set protocol** {**ftp**|**scp**|**sftp**|**tftp**}
- **set remote-file** *path\_and\_filename*
- **set user** <*user*>

**ステップ 5** インクポート タスクを削除するには以下を行います。

**scope system**

**delete import-config** *hostname*

**commit-buffer**

---